

城前のサクラ・長寿化プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

- 辰野町の町道1号線（通称：城前線）の街路樹桜（ソメイヨシノ）は、昭和35年北朝鮮に帰国される皆さんが記念に植えられたもので、現在は大木となり春には立派な花を咲かせ、町の景観づくりに大きく貢献している。しかし、50年を経て老木となり樹幹には苔（ウメノキ苔）が付き手入れが必要となってきた。そこで、桜の長寿命化を図るため、町内ボランティア団体・沿線町内会・通学路として使う辰野中学校生徒会及び町が協力して、苔落としや枝の整理作業に携わり、この記念樹の生い立ちや意義を学ぶとともにボランティアの交流、世代間交流を図ることとした。

事業内容

- 城前線の桜60本の内、平成22年度は30本について樹幹についた苔を落とし、枯れ枝の除去を行うことによって、幹皮の更新と樹勢の回復を促し、老木の寿命を延ばす。
 - ・ “城前の桜が守られて来た歴史を知ろう”と題して、歴史学習会の開催
 - ・ 桜の性質や手入れ方法を学ぶ桜守講演会の開催、及び樹の観察
 - ・ 枯れ枝の除去作業、及び苔落とし作業の実施
 - ・ 「沿線住民・行政・地元自治体・ボランティアによる懇談会の開催」



【桜の苔落とし作業の様子】

事業効果

- 桜守の講演を事前に聞くことにより関心が高まり、苔落とし作業には、計画の60名に対して120名が参加。特に小中学生の参加が多く、桜の歴史を学んだことから、後世への橋渡しが期待できる。
- 地域住民・ボランティア団体・辰野中学校生徒等との交流が図られた。
- 沿線住民の課題であった落葉処理について、堆肥化へ向け今後の活動につながる道すじができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 桜守から提案のあった「観察」の方法の検討をし、将来は桜1本1本の管理観察台帳を作りたい。
- 沿線住民との関わりをもっと密にして、情報交換を行う。
- 平成22年度に作業できなかった桜について継続して苔落とし、枯れ枝整理を行う。
- 町内全域について造園業者の協力を得て桜の診断を行いたい。

【選定のポイント】

小・中学生を含む多くの住民参加を得て桜並木の長寿化を計ろうとする取組であり、事業効果及び協働性はきわめて高い。また事業を通して、落葉の処理などの地域課題に向き合うべく継続的な取組が展開されており、モデル的な事業である。

団体名	辰野ボランティア・市民活動ネットワーク運営委員会（辰野町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	辰野町ボランティアセンター	事業費	237,570円
	電話 0266-41-5558	支援金額	223,000円